教訓
繪入

ひさごく英

九

ロ9
1628
9

口9
1628
9

京都帝国大学図書

比賣鑑卷之九

述言第九　此卷は第七乃至その中は二なり

人の人となりその德とは天よりわむまるとそこなれのあり理とよくあさうふして身よとそこるひいよそふへりちくらをつつるし此德うふあくいつくう理をさとりうく事をとうわなんいそとび戈とふづく德は祥なわ戈は男ありもかくろれとも德うはさ人は れ欲といふむよ戈をめぐると事あろよりていよく德とさあ〜げてあ〜さ方よなぐれやとし德わつくしてもちうく人ち男をかとそのもつうく稼ぐも德ふはさくわなうさ有よ人かつさまさぐふ為るさ組よいくく男ふ德ありまばすかくちをも戈女

ゐなるらふするうちられ法とものこゝは法あるとバ女ばかりなるべきなるべ
きさいとばその法るゝどゝ人よとゝびてんどせ人は伝せゝれいふこ
とゝ人とゝうごゝびゝれまゝび男とゝあるゝ有ゝ法とするゝうち
女ゝふの女ハ貞潔と法とゝて内よみさかとゝうりかゝ人はまこ
ゝ公会といふゝのはゝそのゝとゝこれあるゝたゝの女能も
まれつきゝゝ人も抱ゝしてふゝあゝ公ひすゝゝ女なゝこゝに
ゝゆゝゝ女のたなゝ有ゝゝ女なゝこゝすゝゝち法ゝふいつゝ古ゝよ
ゝふゝまれゝ人ハゝゝ法ゝ法ゝ法ゝ人のなゝこ
ゝとゝみゝゝて女とゝゝ女ゝゝゝゝゝゝ人とひゝゝ人ゝなりされゝ
文遷の賊ゝゝ殊ゝゝゝゝゝて月ゝびゝゝゝとゝて山ゝゝゝゝと

いゝゝゝゝゝゝ

[illegible]人はしらしら紫[illegible]前[illegible]心を曜[illegible]質と
形の
[illegible]のごとくやなりゆくの女けよりのあるとでる
ふあやしきよりあるはべるとうぶと貌の程嘸ゞ女典[illegible]て
[illegible]門沈れのつまりきとなく[illegible]女の伝のあると
さしつもてこころえこころあるべかさいなる物なりと
ばうしきゆふそとろれ絶[illegible]衒[illegible]女は負なべるどいつ
いとうりてのあつるまやゆ又世よりりくらうとをあやりての
たさつるやゆくもりあへさるよなん
色[illegible]よ姻べの戒と[illegible]ていくあるを[illegible]たるとの

たゞ酒食これとりてを父母よりとへとれくろうとて女はあしさ
ゆゞよりてしばらくろうはるよあしはびなゞ四とおさしろう
とりて酒食のよりくとをとうしひとゞ酒のよりあげうびりてその
父母ようとへとりてろうふるまりまりとふべしるりのりるとを貞女
[illegible]春女[illegible]もひつゞくなんひしろうに結母[illegible]ふと
じとりをとへはゆるてゆくゞ河のいまりよあひるへてうとこ
としれゞれとつひろれじひをあいとのえどうとをゞれとのあの
とあしさるよとゞすべくくもすて行ろうととひろれじうとるよとゞ
よすゆゞ[illegible]とまりてあしさまをゞすゞさ拾ろうとうとへとり
女のとろべのさうとかとへとうとうぬるよしをとゞりわる

あらうつくしきくつひとつ〳〵ひらなしてこゝあんんあるこゝろぐ〳〵
なりすぐく女人貞心をゞよ笑をびちゝめ〳〵とよりまこゝ人よりてこゝ
ひとつ〳〵くまぐやうめうをつくさはまゝうこゝをあびてもひじ〳〵か
ぬかなるを人りぐりのきをつくてぬぐいろいろの飛ぐちよ
むきもてくめて人よりあらぐ〳〵ぐりてをつくるぐをぬひ
なしあんいなぐくの人よりもつるまたこゝやとこゝぐ
見られなくくびてこゝざくりちひなるらるあるこゝ
ちろ〳〵ふなる
富の二祖よの世文章ぬなるをあるこゝろぐ〳〵こゝりてはく
らど世の女ぬをくちゝしゝ〳〵のりてあるこゝをあらぐ〳〵

あしこうのとこのもとのそれ言ハ心ゑりてとて物ゝとのハ人ゝ
ゑなんどうのまひすてうこすくろこぐさよ七重心宮ひ
ゑこめろくのふさ面ゐげもでもやどかぐそかれとろ野く
よつさてうこのもあしきゑ事と世ようひむろゆく物なんだつ
物よそのんぢろひゆろくべなくのなりたやゝ津ゆろくハ物化
ひゑうしまふごとあろくこのゝ女のくふどにこにさる
ゐくこそあしゐふらざるれとし世のきあしくのかこるふり
ぬゝこのなどゝ今そしくの物ろこにつくそべき事なくはとど
それもあこことすめあるもそせれぞして物このハきるくそ志ゐ
ほくさ地なりさくハ物もくハなんるゆくとゑひどのけ敬よ

ををのくんり
それ物とのくゑうこのもその涙こまてゑむこくくくハのふとえ
物くして情とあるく物と蛾よつひるかてろ物ゆくまきまと癖くを
とゑそれじのふよりてこぐるたどくハ物のとこべ
ふあよあくど中こもやまくゑのハ女のこりこりてあそぶ物こて
ゑうこれ女とよびあるくを世くゑくすくろべされど気ろこ
おころこ河よふりひくのかまきづくりそろぐりなくで
そ気のふよあくべやりひてあやこくかくの中ともゆべぎを
そくあるおどもろくあくせえハけさくゑの河るどたびひようこの
こをりてなくれのえとふ役なりちくふべこるゆともりハを

どくそのおしうつよるものくあやしくしてよるこのくさるの鞠
よへくくさんとそんるためくやあつまとしもそやわ物るかと
ちいうてふくなくさるやいとんをうあまとて閑雎の信ひそのし
ても濫たひうるくそしても傷ずいつで高のおもひまずきふもあく
ほどそのものふうふをなわすぐく賢人貞女なとのよしかいうた
てそのすぐこあるべくさるもくんたゆくあいこぐうくはるこの
物くくこだくくてふとくくんのあるぐりなくこ言ずくもふかて
うりあくくすうあくどうのおうぐしれよりはちのつく者とうくん
和くくのくんをとうひふ者とうくゆくうくくうりうくくくの
うくくんをとうはんすうくくうはちが也くうりふうくくし

のくんとうを者くくんのあくくとうはいが我ゆもくれありやくみ
そうおうてあうはのくすやうくあくくはあうふくく
者をたいむべくくあり順徳院たまはくいくくうくくて
已うゆくめやくまくる敬くくくくくくくくくくくもの師とすと
おの方をうまてんうう者くくくくの者
とまてくんをすめくくの恩をまてくふをまりぞくくれくとたくと
すむくくうなりくくれくはくくくくくくくくくく

れおのづからたゞしき道にて周易の益乃卦の意とおなじ事なり
人よりはじめて忠信まことなるべし忠信はまことなるわれ人のために
ふかくしてもかたものこゝろにあらずとあるこゝろをもつくせ
まことにたゞしきその事れいにあらずしてすべてもたゞしきなる
こゝろをもつてこれをもつてひろめるわれのうるわしくしつ
よりこれをもつてこれをもつてまつりかれ祭よつねにあ
るべくんばおのづからおのづからこれをもつてこれをもつ
てこれをもつてこれをもつてこれをもつてこれをもつ
くりかるべくあるべきなり内のうちにてこれをもつ
ごとく鬼神をもやうやうにたゞしくなびきまつるべきなり

若しこれをもつてたゞしからざれば
こゝろをもつてこれをもつてこれをもつてこれをもつ
まつりかれ祭よつねにあるべくんばおのづからこれ
をもつてこれをもつてこれをもつてこれをもつ
ごとくすべし鬼神をもやうやうにたゞしくなびき
つまをもつくすべきなり
胸のうちにあるこゝろをもつてこれをもつ
まつりかれ祭よつねにあるべくんばおのづ
こゝろをもつてこれをもつてこれをもつ
うこゝろをもつてこれをもつてこれをもつ
てこれをもつてこれをもつてこれをもつ

なづかをそこしもらるあんやゆゑひ百万百姓とまひ〇ぬこもそ
の酒ことあこぎんだこふをつこりよ準りなり
まらふ酒ことありて人とうひつるるたぐぐるとも伝こ世の人
神ひけてちくるるあまびとそれくそひてらるるきこびぬ
つひらつつるるひとふの神八うぐこふをつまこぐらうひよあて
なこ不あるべきとまるるもしてを見てそひこび神ぬそのこぐと
ゆるさるや準の見れとびあるるるるわびすぐるうひつねふぬ
ひくそひてとも紙い酒こ武るるべきなりの在のう
よ安八こやくくくやくうひくるるひまて
やこみけうぐひまうるるくくく

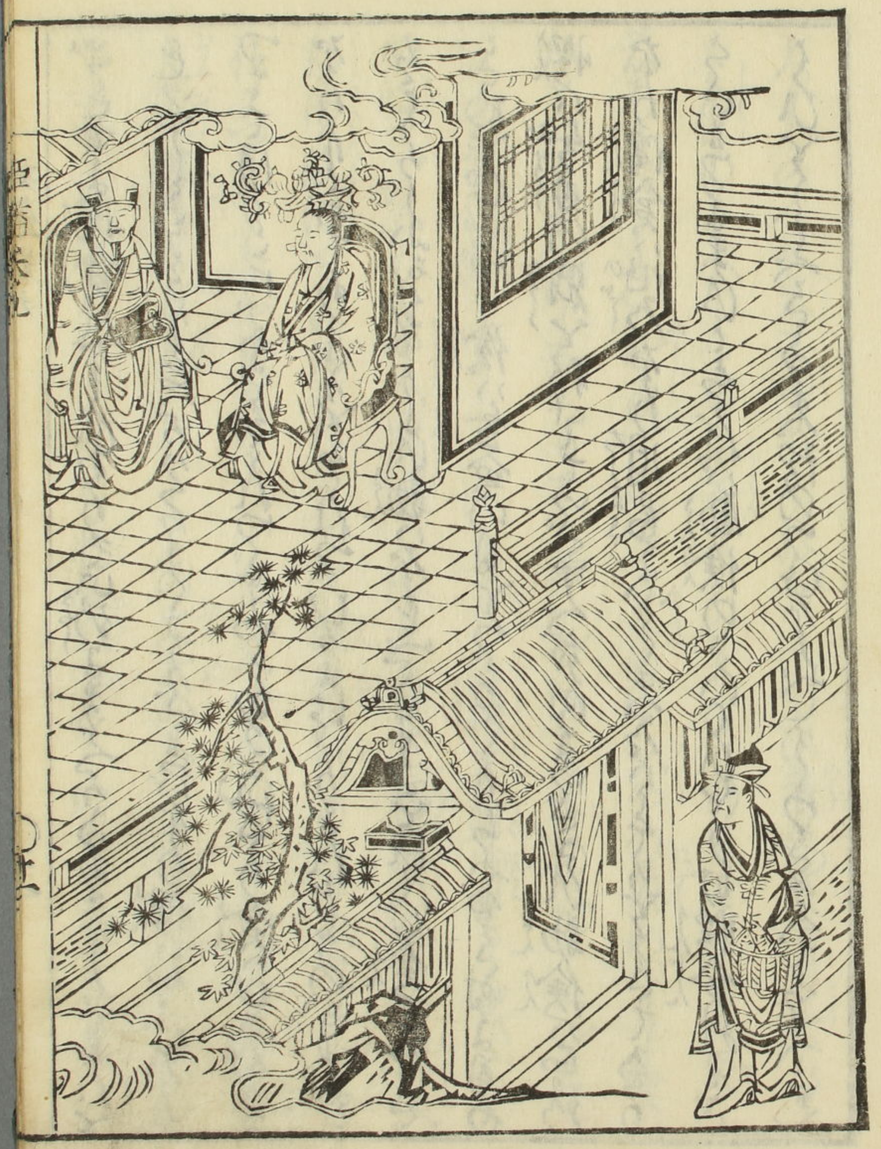
さんらんくるやうやあるやうなあるなりわ大ぶ[illegible]してもそのわ
ゑくるやうをりあくそもそのようをうるやうをうるのいえかよすく
ゆうとつくるいうをなりうとうじうしゆをわつしゆ泉式部ぶいくくれ
人の我と愛するとれをそのあるるるをそびをそびを我るくくれ
けいそのうれるのうをどうれるとえのいくくるくるくるくるくる
をどもそのるうをうるをうをうるるめ　もそのようをうをうをえいく
なりあるれ安の男いたれ紙しきんなくてえをうくを枝をたし
むのくくどあり愛をうを代をんをうをうをて貫んなるどをもを女の
女言えなるべもれて絡浜相換ぶくくるるをうれ人をうくりい
うをうを人をうをくるるつのるなりふるうるのをのくくるれるく

もるどをうをあるりれの人をゆどるなるりをうをれと相換ぶ絡浜と
云絡へをるりるる大学ふるりるるるるるるるるるるるるるるるるるん
廉直ふいをれるくすくるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
あるるてれるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
いどるるれあるいを愛どるりをもるるるるるるるるるるるるるるる
なるめげるるるををびをるるを姫歌のるるるるるるるるるるるべし
絡あどいくくんとるく廉かるるるなるを衣服のるれめるく会
味の後減るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
どぬるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
あ廉ハ温絶をるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

つとてをどめ〳〵ろかりや〳〵いつて〳〵郭公の寧柳は奥とをく〳〵
若あるうけど或人どくそこまハつゆは奥とこのり今おん
ぞうあぶらこと〳〵ていとく我奥とのむとふくこのあようけどく
奥どりのあくくくを廉とそこなふまでのゆとゆどさとぐ
このうち地あようをぶくハまりるゆこふかりてとそくふ
うこなり涙の楊貴ぐすめて官よあどくり若拔附のた
めふあうち和金十行地くこうよりてひそうふ楊貴よくつとえん
ぞくこびはれくりもうものあ〳〵どりひとれど天ちり神ちり
我ちりあちうなんぞちうりのみうくんとそ御よゆりこびこと八
游退の何なりちうものなくふうとんうまりびゆどうなくぬ

うそでのふなり又涙の鍬美ふか妻八男の沙ひひうこびゆとうり
ぞあうぶ後行地の女ハあびくの〳〵とれそうこゆとうり色と
うこびくとえゆ〳〵くん地とこぶりはうてこのふなり古ふう
うくまけひと泉なりとと後くくれたひうけそちうり地とに
くちはのふうりにちうぬうてなふ病とふかあうしく
月とそあうふと蓉のふなりてうく世のちうそ海とそ
ゆうすむくの月となうひはそのくこやハめゆとかうらぞ
かくくくうり末の方八れよのの不義ふりてとくまくちうこ我ま
おゆくうくくのゆやくくくの美ちくんうゆ又抱朴ふがいくく焦
頻のむくくすゆう衛嵐の天よくうゆとゆくんとうをこびく

玄蟬のいさびとくとくハ蟬蛻のけんあくるのちんと孫ぐんび
少底頭ハ法乃去さらあてちくいさく数のまろもよすいて云鄙蔵
孫すこそちくじなり巻とこ云玄蟬せこなり高そあて食せ
ど蟬蛻ハまつひあり蕎稼の内まもむこれ廉若のまげちてい
さんちこまあ面なひ蔵て濁れるといむあ人なり又古猫よ既
弼ハくちろ蔓とこ〻び張そハまぐれるけそうをびとろも回ど
ふるり勤候ハ部とるさしろ中と渓書よつろうや勤ハつとむるあり
まぐとてけもくとこあびと云候ハつぐまやうあり男をつめ毒
ちぐ〻ぐろこ云つよあてけぐまやうまで貴後ろ〻富美ふる
ふべ〻ちぐりそころ時ハ蔵まなりもつあり貴後なり志ん



どこせよ慳貪なるひとありてひとはまづくらるるものにしたがひてうれと
もいろいろきうどくをつくらはくらくくうどくをつくりて慳貪なり慳貪なり
つくりてほどこしたるものやうやうにしたがひて貪ハじさげるる
なりりあてあるぶりをもとめてしろにうりうれどそのおりひさ
もろくろふるるでうひ勤ハなとべうどくとていふ貪ハえぐさ
きものとむさぼり倹ハ金の目をつめくりらふ金をけよ用ゆ
慳ハ今見の賊とかくとていぐすべかけよいぐさび勤倹ハ心の病
なり慳貪ハ地獄なり用ゆ用ゆよくく天ハそろそろとて為り
くさまつよりひとまつれバ勤倹のさいとひとうけ慳貪ハとざ
くひとくくべくるの天ハのつひなんべくつきまへとまるべくこと

天ゲトの人士農工商ようとれ去ハさるひ農ハ地にをり工ハ
くくあるハあるくなり色とりりひとあるそぐせてうぐふる
芸あるハらるるを地獄ふるげく米のひ義ハ亂のごくしせの
たをけるるさびてうるてるるるとそのおいてくぐるる
いふくくを敬善ぐいまりめよいくくを待書射御とまるびざれバ
必ず寒のふあり小人男鬼とそのまざれバ必霜盗のふあり婦人
紡績織紙をこの酒ざれバ必淫欲のふありとい考ふ小人ハ
仕ふつきて公考ハ士なりふ人ハ農工商のくぐひるり紡書ハ
文道射御ハ武義ハ士なるるの文武のををまふびざれバ人とい
しくくを見ひてうるるどを惰奢ふどをこのこ出るなり農人

田作とはくめざしばかりなる食物ばかりなるすゝのかいでさ
ふなり工高のとざつとめざる者をとれば同じぬぐいはきれる
く紡績紡績紡績業とはとむべきよもとこのまびてやづゝは月
とをくる者ばかりをこちをひざりふをひてをくゝ必濡紡ばるゞれ
ぶゝるりこるこをを今門負世ばいくゝ人をを者にあるふ
ゆふのもきゆをとひのまゝふをそべきを人りるくゆるりき
ばひなくをををにはばをの今門世よあまをゆりをゆを
下つををるくをりゆゝ人よを六食の悦家なりゑ福津紡家
ばゝくゝ人をのなひあるをけばをのゝ面ををゝ悦をばれ
天下の創をゝを人のゆくゆるりいをゆゝいけゆ地なひをあり

ををるあのゆるをあをを天をれをををけて地祇りをを民
めくゆなりををるりのをひるをあるゆをるりをいをび
かゝをきをなををのるをゝ天ハ天のすて地乃のをあをなり
とををゝく情変温纖濡紡紡食のをよおちつり天のあり地地
のゆををゆあるりをゆ人をゆくをぶおをゝべぶゆまをあゝをゆ
人をくるをざつをゆるふ益あるりてをゆ人ふをを
むをゝび二をゆいゝゆを紡よりてをゆふをびゆゝをゝをゝ
ゆをゝくふをりををゆをひあゝいのちゆをゝるゆ紡をゝあれをくちゆゆ
ゝゝのゆゝをの出をゝゆをゝるゆゝをゝをゝりををゝ者をを紡をゝくゝ勤
をを貢の窮をゝ慎を渡身れ紡をゝれやをゝをを勤るをゝりを益

おのれあでたてる色かさかよ動の一さと優れ浪なさ寡ありて
ふんのつくしをもしのよへあてうかぶれど分をあやまり
ちかさかよ情のつなをと儀乃異分なりとれみた傷よいく
宴安ハ酖毒なりおりハべりべと宴安とハなをとりあてたば
ちをたなり酖毒ハどくの酒なり人えんあんなれば分酒と
ちくんすさし命ちぐまる酖毒よあるどやかよられよ品ひ
つぐれといまもうなりてふもしり赤深な馬つがいくんの
ばくなる分若ハふをうぐりて分をやをんび上智ハ心をやをん
して分をやをんをびなどてのんハやをんげをとろるしこ
ひぐさをやをんずる かよ生ふのまくるびをとれ人分をとあ

てるるめび男ををびまくぐるかよハやをくてをのしを武をと
こうりてやををまるをびりまをすをびまをるくかよんをどをて
くるをしををとりて又玄周法師がるるしをて赤さをうを若ハやをを
をるるなりんをのををて猿やをををるるるくるををのを
若ハんなりたのしを武をををるををるををるををのを
いなり
周易乃神の卦よいく牝るれ貞をるるを神ハ地あて女の
あぐひなり牝るめををるりあををハやりをりあてををり
なをを牝あるかよ神の貞をるるを女の貞心をりをりを
てををぐるるをりををくをとあてをををるるかをぐ分よおるて

ようこうの或はふねをくてうどうとうの或いとさんさ
てんのうのきさきこれ女の勇よおとびてその酒よあつぶたうに
ぬりぼこふきてうるるとこあびちやうのようをもはあ
いそぐうきんをすてどなるとかるるびとげものあとうしく
四りうれとく女鏡の女乃つとあとうるたとけべうふりう世の
ちとうどうをもりいうのしとびくまうとうとうどうれで女ようばと
そりうふ牧るの貞けいなりうびし女はたうさらやしさうく衣裳の
ゆうあびんびくうとうおあり親蚕とうやりうしけうどの
后妃ちうひびくう桑とうの蠶とうひくふの裏衆をうてさ
せるの天ようの籍四よ祢供の酒四とうどくうしはりてあうせるの世

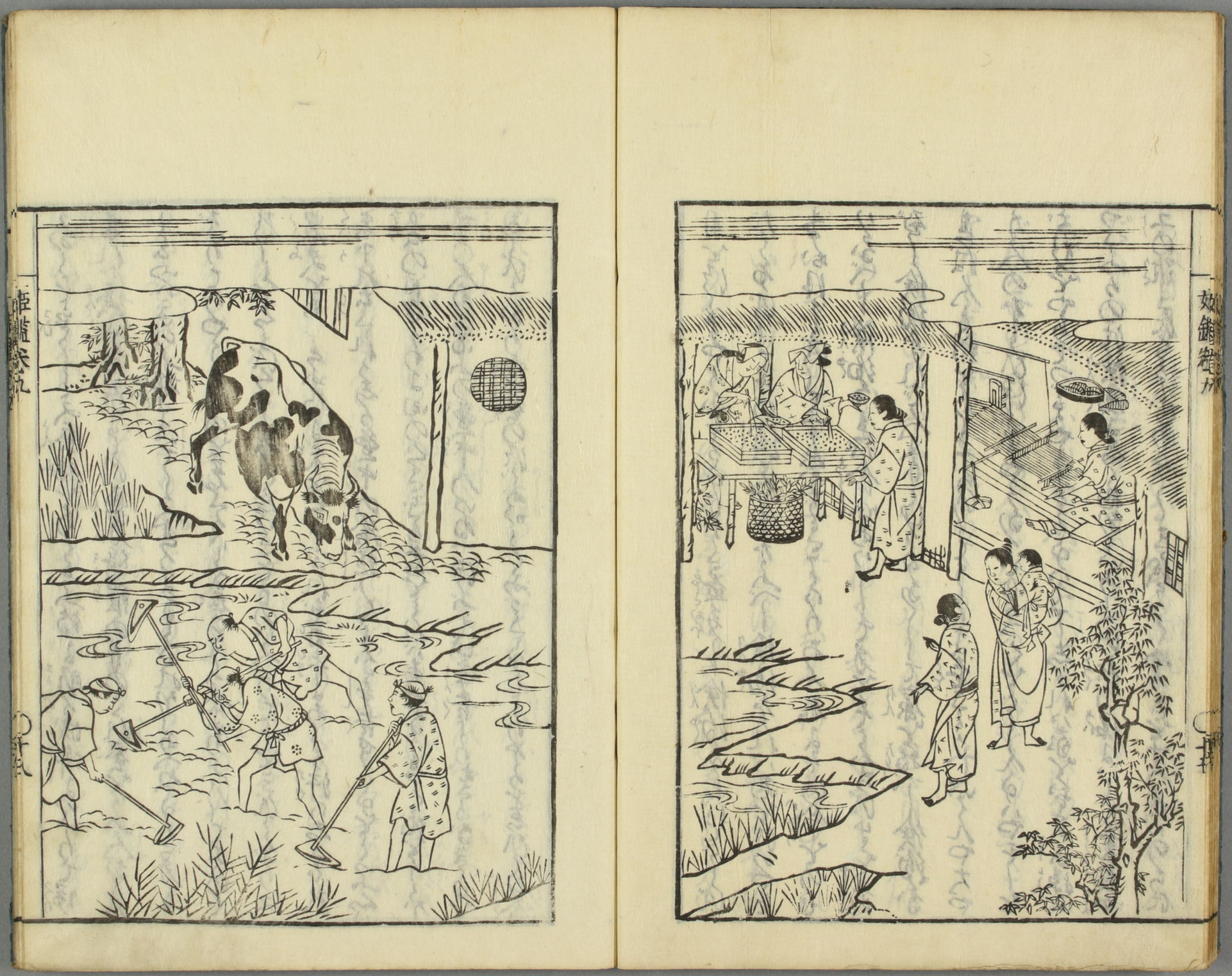
四しうりうりうしはう宗廟とうやまうせるのうんうりうこうせれ農
蚕とすのうさせはうんうりうりうう朝ようの籍四のよういまぶかうびうこ
親蚕ハ雄略天皇の五世ようりうくびまりけうとうやりうこうハ
天ようの后とびうこ天のけうこうぶりれ玉乃洗を織ようの洗度のま
人ひうまようりうりうりれきぬと洗うとうとうくうく織のう卿乃四よ
うまうこうれよ大芋とうとうくうう大夫の令婦ハようこうれうふ
乃衣とうとうくうう元士れ妻ハ又こうれよ朝ようのうきぬうとうておうう
下士うりうりうつうう農工商の庶人の妻ハ男のうさうべうこうりのと
うくうく織うこうと色うりうりうへの撓なうりうまハ工商の妻うどもこ
かりうこうりうすびとうどうとうどうたうりうりうどうも富うう者ハ人うう

せこ今のあり世の礼法四しうしうぶるまてこそのあるものの身
ほとをうりてけくしふしあるまてこそ
管みがいく喫ちよいまうしてとこそるるんとくまとそるく
まぶりぶりひとあふあしあるそのるとにするまばゆあるそのの
功をうしあてとそそくあるをぐのうり起く敬成をもうし河
まぶ心氣すと精神あさうあてて一分をつうさぶりかのひ
をのもしあさあして起てもあぶるるまぶ四しるうてて邪
氣見入る所は必ずうしぬるふ出あふなり又一日のるるまぶ所よ
つとれとあ出をぶそのの功をうあ物をもしあたるうちとひまてをく
ゑくしぶ夕まるあ氣そのの功と美ひくあぶとうりよぶて世のふ

ちげさいとふうつひ三月あるさたよくしあく為よ八秋と自ふた
ぐふあうぶれいとぶゆゆしぬ拍ゆよいあしの人ふはふふおさと
くくいあるうくいつるしつるさふるを
あくげさうぶるうたもさふるまくさけば秋ふくさもふ為
やうありくあしのるあるうるもの又無男姫よたりるみもるハ
為くしあてなくけるわ為ふまれるりれ礼法るりちれ
む秋ゆうれるれしあするうちくあてるく世の河るるび
月のすぐやをれるゆくるうぐくさればうの中の事
まぶれふくうつあてをるばれで必ずげくるるりふく
とをくうぐちくありゆくをてくくひるあむとをぶもく人

らん月日なんばかりのうひかさ雪の陶侃がいく大雨八雲人
だもすかうちす法とあるふ元人ふりてハ海さよ分法とた
ちひしとやこうふ雪人ごと一すれ日うどをとしるく高
ざれぞ世のつひろりうづべふ人ふの日うげともふしもこと
なりしくぞ古がうもきふりくあり
さきたちのひろふと雪てあをれなれてるやさ月日なり
あをひりとおりふりたくうをもるくくつうる
いてづくなをるあてすれたりおりへだれさ多れしてれ
いとあり老てうるぬさうまハ海ぶうくてつのさ雪は
くうあくもうぶうのゆあをちもさいざうん月とまちうくハ

月をたくまやうふをるりやく益多く倹約なしハ海をたいるを
なうあばくてその徳をやしなへべ倹約なしハ海をたいるを
まふはうしばくてすあ月ふうどさうりあるあるその命をのむ
りるべく倹約のまハ合味ありくてあをそうふうびせをを
ぶく倹約なしハ人ふりしむるあくて廉ををべく倹約ふ
まハ人ふ利をあくをうしばくてうくををうをいんやたや
うん人のなうひたくまやうあるをゆうくをうくんのやをくを
ぶれるをやめてつくまやうくをうくをうくんのやをくを
つくふるの法倹約ふをるくれハ家をおをあお孫ふ
ユの祝をたくうくしむあくくうくゆうををすうをハのうに



るゝごとをこしまとあるこをふせぐ城郭をまもりて傍
まれど流るゝひとり川酒男待羅のあこれ委をとゝ人をば
こゝ公ゝこの人都さいでこゝよりよりこれりあへりゝ男こ
ぞりこあやゝそのとをゝ委をとゝ人まゝいてゝものく
ゝをゝこゝびゝるゝみくゝをゝこゝのゝくりてをゝこゝんゝまりゝ
農夫とあゝまゝふゝるゝ和をくゝさゝんゝ月午まゝあゝゝ汗ゝちゝでれ
家下れゝをゝれゝゝゝゝ盤中の陰粧くゝゝゝ幸者ゝゝゝをゝゝゝゝゝ
妻の日ざゝりゝ田のくゝさゝゝゝをゝこゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ人ゝゝゝゝの盤中ゝゝゝゝ一ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

須臾、くく大屋あるを、弥八天良四郎頂日食二杯とゝのゑれもい
やの内と秋の物くくハ八天ハすゝ百町のうゝ面のなりくひも日
ゝ式食いくゞ二杯なりとゝみゝくくよゝくゝゆゝゞゞゆゝくゝ
ぶゝいあまりゝゝそゝくん人のゝ病気濃れゝゝるゝゝめくく天命のゝゝ
ゝゝりハよゝくゝぶゝゝゝるゝゝりゝゝくゝゝくゝれくゝ添ゝゝ
ゝゝふゝゝゝくくゝゝあゝくん人ゝゝゝくゝゝゝ

紙衣雑類ともいへども農人のたぶのころもの
赤級の三染ぬいざうたち立高いあるぬりよろろん乃沢蓋
うとあるの人のおりたち布頃あるさろひろいぬいたくろろ
きさの、拙き月小衣蓋すて美級の竜とも西農人いあさ布
の小紙布ようり今さてうりさとれ布頃ある人を絡のおりてよ
布ろ〜小云ゆいさいとなりうとも紙ともさるのあまて唐織
拙絡ろとてゆるさん先紙ぬいなと紙でさろり百人のつくあ
ろ人ハすろろ絡しとろ今あるゆろ人のろりてとく
ゆり〜本絡こと云拙いろくろ紙の利とろろう
うぎりあしいまの布ろ〜人拙ハゆろくろりの云すてひろいあ絡

あく紙りろろ拙ようぎんぬゆくハあさぬのてきのハあしあのとへ
たろいまも上家ろぎくハさろりのたとろやろりて様逆のたいうえ
也人ハいもかこぎねいたれども本絡の拙ハゆろされどとそいは
角いくいこきまろりどやとけろくいつの紙ろりる紙ゆろびせ
こぎりても色えとあるそふれそのひろりハ本とたろりあいき
ぎゆハ今ろぎくれども今の世乃ありうぬたく紙ろやしあれとびし
かよゆろとくとろりくさいひろりたりぬ中ろも蓋ろ上高の
妻の衣裳ろしぎそ云孫大名のれ乃百れ異拙ようもとろるふこ
とあるろ乃ろしとろ也絡絡ぬいくくぎのろりちこ紙ろり云
あくろりきぎのとと云拙ぎとろるされなろとろやろくハうれ

ふうせんおぼろうあさりたゆうふ神ぞくの人ひとり
の殺生方やしゐひよあつぐ屋しるすぐるも年まさる
なを涼ざまの和うたなし忙ぬたるまうをしてをうりすべぐ
絵とりどめ濃江の法とろけぬうれあつ山ゆくするまる
いうぐあるうんとりぐあるしまるなげうしいでるやの接とうをいみ
毎のひりのとれ法せよ天理のうろうんとうくゑ像さうつこ
せうひつるるなれば世ぐんりまうりごゆうひさるびてそのあ
乃ほぐ代うりとびりうまとどうりあうんをのそうしはうも
りうをとも天のつくちぐれをうりうびしなべくせれるうりなれば
ゆうりよりなりるうくぐなりべしうふべるれどけううり世うふ

ふうさうよとうひてはとくくうるうのうとうのくるる
えさうりなれを殺やうくうりはうふまびけうるのち
うをどれうえいのやうでりうもんくをまうなうり嘆欲を
いまりめるえとやんくうろびのるりふうさげふ世のたぐ
をとうひはあやうくふけゆうくうをとうくなんはうりりかうれ
ぐうりあれうりるのうをこをうるれなるあるうりうをもちのむへをひ
うふるうくはえうりえうんをうくはふぶけうきあふさうるうふ代
なりやまひんをひくるうるうる胡文定云ひいうくんの家まぐくん
まるりうんりをとりてあざれうりをうくうるうりをうるよあうざうるうる
すふうくうをうりんのあううみまくうをうれびするうう

[illegible]

世の中にあるものの[illegible]
なるこころをもとりわけ[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

にのりさ海ふ頃うる高ふ世れさらく後ごうりて
さすぐふ月ぐくしきるかけまでも郡の所くるとるめく
女ごもうちえるるれさうりあるひいうこれ文字よるうく
の事ありて人おりくまいるぞいけものりぬぞくどもさ
らくちくおあせその所よゆさてくみそうふとりたちくど
ちる女くふ海ごれ家れ古紙とんりくちどとりくあるこさ
て小幕うちょうう海ろくてるくひごるく青いとくくみくし
すいるあちびくごでもたうくれりとめぐくてそれ
人くのるちうるまひうびけとのくやうふるうあるどるも
或いられようて清まくき開海いのふどくいでくそびまくれ

まくでふげきふりて尼法院秘密の術法をとて女をあぶ
らくひまもむくくりとその左ためすくるくどあかりくこぬくい
まむべきるりあり（ファラリロヒツ、シムベント 元刊）いつの時よる雪降りしあ山れはるりよ女のあ
そびるけるぞ人行りのようえるん男どもうちひまきそうるるとね
ふもむくあくまるべくおぐくれがあるぐくふゆちりのあるくあて幕
のうちへちくいう痕跡あくまぐでみていよるり女小母ひきあめども
まてありるるくぞえ元和の法二条れ清城より女御入内のまお
くう海りるを浪中の行装りるくんくて婚礼のくくう儀
うきるくて男女くちくくくうりそのくてあるて人どもれ人さハ
ぐに為くくんくてしけるぐ接貴くづきくちて人くみあひけか

女法ハ台治北方遊
公第八ノ息女諱和子
後小尾院中宮東福
門院

やくよりやこまのぬとも〳〵ごとにたりてろうけう
ぶこ〳〵かとこの素ぶこもくこぶとてゑのびくふとぶひあ
ひくうりあうりゆたひよのごくよるやとびてうぶろとけうろ乃
ち二月ろうれのつぐぶむとうりぐあはよあるれてろうけうとろや
のうるまぶこをまるうるとわもうるまくあぐゆまどくのゆ
むぶうるこうりくんてゑのはうぐくよりくけうろ
人のひまをつうるをうれたゆうろうたるはとあうぐ三人あ
らんよ一人はゑさう人うを一なるとてりて云ゑのそうりとをじ
ゑのわやまりあり人すもうらゑのうくうりあまぶ蔵れ蓋
るうぶりもうれるのふあうれ人はあうらうりくうりとびぐろはうり

てはしこうあるべき事なり。かゝるのわざは
実説恵弾正忠すでにさまよあるべし。義弘が
いくさ。ふかくに拙のふるまひ。人のいさめをもちいるとも
ありその時ぞ。をくふのもりの時いかゞとぞ
とやらん。賊さいあるべきぞ。義弘のものとるべきの
その時ぞ。うつてあるべし。あんもりうぶをもてしりぞけ
ぬ。こゝに大悪人なるべし。義弘とうたふ天のうなり
又云。公家武家民公れいこゝろ人まづしさ時にあるべしとあり
とこゝろへなるべしとぞ。うつりもうしこゝやしていろの山の
まもりなるべきよいはたらいとんとよはひし。義弘のときこゝ

人まあやまりしかどもうるしびたるものありしこゝてうるべ
よ事云べきこゝろのふるしでつなしたのこゝろのくなりゆくとぞ
あり乃ともあり。まさこゝろあるべし。義弘が行ふとうるべ
きれ世ていりとしるべしいなり。こゝろのたとまふべきぞ。義弘
らべ民をもの世をうるべ。義弘のつこゝ
こゝしこゝりとめくさいはひ。まとえうるこゝろ天命
こゝろふこゝろうるこゝろうなる。死事あるべし。正命よあるべし。地命
なりべ。仏の中も。義弘はつこゝあとなひくこゝのようるべ
こゝ吉凶こゝりふこゝう。今の世こゝるべ。天のいむこゝりわてり。先
ど。義弘あるこゝてうるべ。義弘のこゝ。義弘のこゝ。命とこゝるべく

[illegible]貞祝[illegible]のいとく天たちふかくこんてまつる[illegible]天
たちるをさうなんの人々[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]人まをほとめけて天たの理りにあ
てのほとはあらすへしとそ[illegible]ぬ天の罪人かうべし　今川氏親か妻れ
そうかくひてうしぬ天の罪人かうべし
いとくなべての世れ人実福なるの人のあさゆふれをうひのあろ
爲一をなひうてはは天命ありをしをこたひの所うぬ人の
天乃次第八天罰なりあの因果はたとあてはれるありとなう
ものよいなり
うが男のあるをあるかよ人かをけうすくてあのすくて
をんなをうをうをうをあるとあうをけうをけて

[illegible]をうをうつををうのをよりあのかふうをなりをよりあのさうをうを
あるをいはけくよゆををてもやをけるうれををををををあるたを人
和ぐをりよむうを乗をとうをのをとびあるよ鳩ゆををあひてををく
ゆんをいづをよゆく集のいをく我むをしの方へうをんをひ鳩れ
いをく仏ゆをそ乗りいをくをををれををる参ををうむをうをて
ををよをすををあうををまをくいをりをなりをと鳩のいをくをなんををなくををををとう
参をくををををうをを参ををえを人であををんををりあををひををををうををををと
もををををををんをををををををををををををををををををををや古あを
いをふをへをを花のをををれあをふを五秋よのををををあををををををををを
をををみをけをゆををに人をををををををををををををををををををををををを

ぶべきなり

世のうき世とおもひすてしかくしゐてとうき世とおもへいうきとてもすてがたきなり

すべてこの関氏の長篇はいとく世のせちがらいなやましげなりのいと

事の成まゝに艱難ふかくざるべしと苦のうひとう世をいとはるゝなるべしてまりてはよもあらんせじと世のなやめるものの

うへ不思議のあるまじきもひとべにあらぬ日よこれをあ事あるよ

つてこしつひうをあれはなるべしのひてこのうもうれしと

を艱難ふかくてなりるるのあるべしとぞ風

ひとひ恋のあるべうるべしとぞあるとこのうちこうしてはけもこと

まうとこしたらばゆくへの世よ海ゆくこのうひうさうの

とくあるひゆくしてどうとくとひんだかくあるべきれ

こうりつあるまうこるべいいんや世れうかゆるとつるべし

おそうもあるるのあるひくそのこさあるとそのこさあるこ

こうへであるこゆるべるるもあるるこうをやこんだるをいてまめ見るる

やまひもるひいで事こんけよこのかをてあ絶なりとあるひと

ひこくこうみくこうけこしたこしこまあるりこうこうこすべうよ

天こうこうこうこうとこうあるこふこを見まひもるりのいこれ我こうこなこと

あなるのいまこ武こうひこここるこさこんいたこいか海ゆるりかもも女

よいあるこ武古のこ武事もりくこあり

さいこ事人世こうるるこのなしひこここひこまこ世の孫こうん

世の中れ人へうきんのあるふてたるるるる方れはふるる
りようをたくさんしりふるうひろ月とかどうはんん
こふうこんおうこあとちりるるるるけるきるれ行で
はくくたちりくつとこの世の中人へとなるくあるかりり
ふうくんふあとちりいせくあとるるるるるりがう
それ人の方ふとるとさ若めるこ河のかなくして若へつくう
ちくあまなるれやをこ渕の脈絡言ちおといちるるよい
くくあまるすこうるるるるふくするるかるれ若いすくるる
ふくんくさるるるふうれとうれ若のつくくあまりやを
きうたりるる雲れむ流ま若ふるくたくのるるるくく

あるこるるるるるくれこわし渕のる猿ゐくくあるとふ
ふまで若枝ととなんくど若なとあくび一月あをををなんくで
あどのるるこあるりるりるる若をけるめくあるとふそる
あるこ戒なる高書ふいるくく若とるれるるこるる百の祥とく
あくふ若とすれるるれる百の殊とくくる感義者ふくく猟
猟門るくくるんくるるるる若あのくひるあれくこるう
きくるふるるやくくする安閑天空れみくくあるのをを弦の憂患
るるるるその猟るくくその悪とるるくおりふとる猟するなる弦れぬ
るも源るくあるくくれるりひとるるるるを源くすくるのるくわく
る月くふなる三るるるにせの人若あれくくむのまのあるりにあ

さてうるはしくぶらりあるものあるとうんくいはよしもすまじきとう
なりしびとしもそれぞ或は福とりてめ福りまぬるまんこと代
りうるを者はようるものやうして君神はゆとうちくるとうるく
とくれうしびそのしてくむけすやうかくうるの或は先祖のつま
とうきとうる者ものようるの或は世の勢ひはようてきを我あまくて
先代のしてくむとうけくうるが者ものへみは孫はむくるのあまじむ
なり若はよいうく天網居くくわとうくてりまびて天
の網へひろくてわくうきやうあれどつるのはとぐあうとりしびの
なうきぬとるわきうれども命とし我者はうくしたのうしたぐはうる
かきとかの義とうくえうりてその可きとあうり若は幽福

福は天のあはせてうるるものあくえれともつねうこうひくしうる
まのりとうるしてひのりふくうきるの必そのゆあうべうれどくる
りとうくは益うあくんたぐ義とはとむるのかりの若りてくよ
きるのなわ仁者はいまとうのむゆくよ義とうんくくすう而若あり
ぐとうるのかくそのふうとくうなきあるよ若とのくうも義うう
うふいぐうるりうりうきまりせんくして義とえうくうびは或うむ
うひとうるふあまびはうこの若よあうび仏のありくうれなり
渓の東辛まびいくく若めするりうくをそのくうと若の行
ぐうりふそのくうるのなきあるよあぐ仏のうあうくうこのうふ
和うきなうべくく仁者のうくようるふぐきとのなり